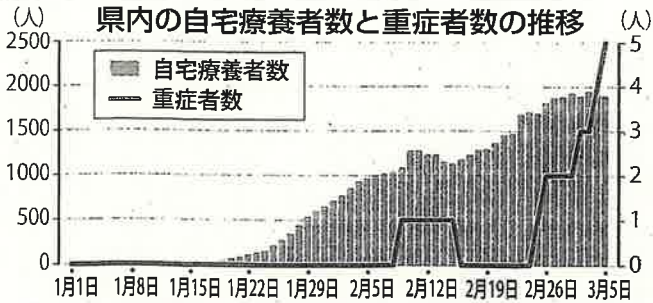


自宅療養者2000人に迫る

県想定の50倍 軽症でも悪化に注意

県内で新型コロナウイルスの感染者数が高止まりし、自宅療養者は5日時点で1899人と、県が昨年11月に計画した最大想定(40人)の50倍近くに上っている。自宅療養中に症状を悪化させて救急搬送される事例も出ており、医療現場の負担も増してきた。専門家は「オミクロン株は重症化しないと油断せず、異変を感じたらすぐ医療機関に相談してほしい」と注意を呼び掛けている。



県内の自宅療養者は1月13日に2桁となり、2月6日に初めて千人を超えた。今日3日には過去最多の1949人となった。軽症・無症状者用の宿泊療養施設(計500室)は5日時点の入所者が181人と余裕があるものの、子どもや保護者は自宅を希望するケースが多いという。

県は、自宅療養者への支援員を当初の4人から50人体制にし、健康状態を電話で聞いたり、血液中の酸素飽和度を測る「パルスオキシメーター」を配ったりしている。

一方で、療養者数の増加に伴い重症化する人も相次いでいる。重症者は5日時点で1月からの流行「第6波」で最多の5人となり、関係者によると他に重症相当の患者も複数入院している。重症者を診る徳島大学病院では、一部手術を制限するなど通常医療に影響が始め、現場は危機感を募らせている。

大学病院によると、自宅療養していた70代女性は陽性判明の2日後に救急搬送された。呼吸停止寸前の深刻な状態だった。ワクチンの3回目接種から十分な日数がたっており、持病も

妊婦や家族対象 3回目接種開始

県内の妊婦らを対象に県が実施するワクチン3回目接種が5日、徳島市のアミコ東館など2カ所で行われた。

自宅療養のリスクについて、東部長は「自覚のないまま症状が悪くなる恐れがある」と指摘。症状が軽くてもパルスオキシメーターで酸素飽和度を正しく測定する必要があると強調する。

経過した妊婦や、その夫、同居家族らが対象。アミコ東館では初日に5人が予約し、医師の問診後、看護師らが米モデルナ製のワクチンを注射した。阿南市スポーツ総合センターは予約がゼロだった。

運動部活動2週間 県教委、クラスター

学校の部活動や体育の授業での接触が原因とみられる新型コロナウイルスのクラスターを「運動部活動期間」と定め、動部活動を原則とを決めた。各校と各市町村を通知した。

吉野川市が7人に接種券を誤送付

吉野川市は4日、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種の接種券付き予診票を、7人に誤送付したと発表した。

市によると1日、昨年9月1〜20日に2回目接種を終えた人を対象に予診票3546通を発送した。3日に該当者の1人から「別人の接種券付き予診票が入っていた」と市に連絡があり確認したところ、他に6人で同様のミスが見つかった。

予診票には住所と氏名、生年月日、性別が記され、氏名などが書かれた接種済証やチラシと共に封筒に入っている。封かんまでは機械による自動作業だが、紙詰まりなどのエラーが発生した際に、一部書類の封入を手作業で行ったのが原因として考えられるという。

市は、複数人で接種済証と予診票の情報を照らし合わせるなどの再発防止策を講じている。問い合わせは市健康推進課、電話0883(36)1177。(城福章裕)

性中学校教員(37)は「昨夏には感染した妊婦が亡くなる事例があり、不安はあった。赤ちゃんが大事だと思いい接種を決めた」と話した。流行「第6波」では家庭内感染が急増。県内の妊婦の感染者は2020年2月

ラスタ(感染生が相次いだ)県教委は6、10を「運動部活動期間」と定め、動部活動を原則とを決めた。各校と各市町村を通知した。

今年中に開催大会への出場する場合などは休日3時間以内。この際は、う飲食が感染源にならないよう求める。

体育の授業は保健など運動を学とするが、器具が十分にできず、接触や用具を共用の実施できない球技大会は中

市は、予診票に間違いがあった場合の連絡を呼び掛けている。問い合わせは市健康推進課、電話0883(36)1177。(城福章裕)

だったが、今年1月以降は69人(3月2日時点)と約3・5倍になっている。特に例的に接種券は不要で、徳島、阿南の2カ所のほか県立西部防災館(美馬市)で5、21日の土曜(阿南、美馬両市は期間中各2日)実施する。AmiCo東館